

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年 国語29人 算数29人 理科29人

第5学年 国語43人 算数43人 理科43人

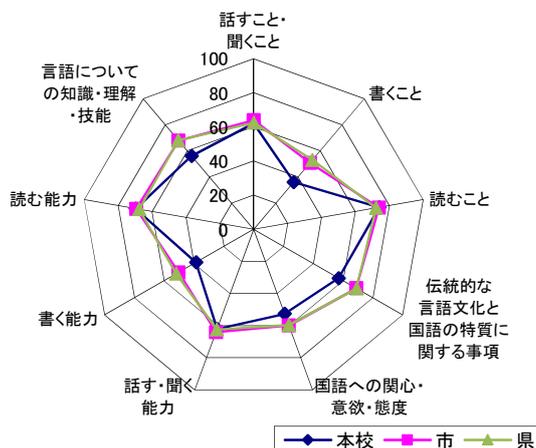
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	62.1	64.0	62.5
	書くこと	36.2	50.9	53.1
	読むこと	74.1	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	57.0	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	52.6	59.9	59.7
	話す・聞く能力	62.1	64.0	62.5
	書く能力	38.6	50.4	52.0
	読む能力	69.7	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	56.1	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

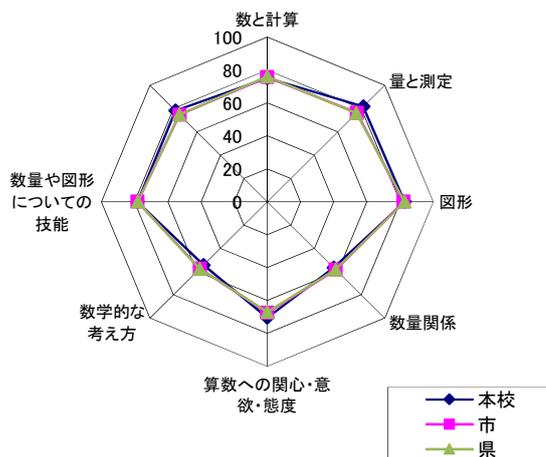
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は県と比べてほぼ県と同程度である。 ○聞きたいことをもとに、インタビューの質問を考へることができている。 ●話題に沿った意見と理由を考へて話すことができるという問題については、11.3ポイント県の正答率より下回っている。	・国語の学習だけでなく、他教科、学級活動等で国語の学習で学んだことを生かして話し合い活動を意図的に取り入れ、習慣づけさせていく。 ・友達の意見を聞き、それに対して自分の意見を発表する場を多く設定する。(ペア、小グループ、全体など)
書くこと	平均正答率は県と比べて16.9ポイント低い。 ●書こうとすることの中心を明確にして文章を書く問題については、正答率が県と比べて24.3ポイント下回っており、無回答が21.1ポイントあった。どの内容においても、記述問題に課題が見られる。	・児童にとって興味関心がわくような事柄を選び、書くことの楽しさを味わわせ、書くことへの抵抗を軽減していく。 ・視写活動を取り入れることにより、作文用紙の使い方や文章構成等、基本的な事項の確認をしていく。 ・日記等、文章を書く場面を多く設定し、書くことの習慣化を図る。
読むこと	平均正答率は県と比べて1.9ポイント高い。 ○文章の内容を的確に読み取る問題への正答率が高い。 ●登場人物の気持ちを読み取ることや、段落の役割を理解して読み取る問題においては、県の正答率よりやや下回っている。	・より一層の読書活動の充実を図り、文章を読む機会を多く設ける。 ・登場人物の気持ちを読み取る際の、要点となる部分の指導を徹底する。 ・段落相互の関係を明確にさせる指導をし、文章の内容を的確に読み取ることができるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は県と比べて12.1ポイント低い。 ○漢字の読みについての正答率は、県とほぼ同程度だった。 ●言葉の学習に課題が見られる。特に文の構成(主語と述語)、ローマ字のつづりについての理解に関する問題の正答率が低い。	・漢字の学習において読み書きの他に、漢字の意味や使い方も併せて指導し、文章の中で使える漢字力の獲得を目指す。 ・文章を書く際、主語と述語の関係性と用語を日頃から意識させる。 ・パソコンでのローマ字入力等の学習を取り入れ、ローマ字に親しませる活動を多く設定する。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.2	75.8	76.1
	量と測定	81.8	76.5	76.0
	図形	82.8	82.1	82.7
	数量関係	56.6	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	70.4	67.4	67.0
	数学的な考え方	54.4	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	78.2	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	78.2	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

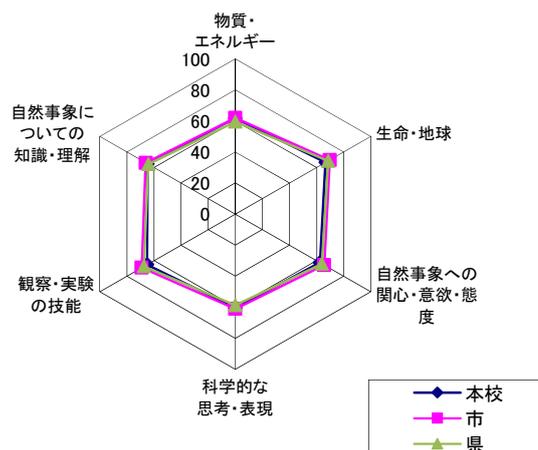
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は県と比べて0.9ポイント低い。</p> <p>○基本的な計算の仕方や、数の仕組みについては理解している。</p> <p>●かけ算は、県平均より5.6ポイント下回り、個人差も大きい。計算ができていない児童も、計算の仕方を説明する力に課題が見られる。</p> <p>●問題と図を関連付ける力に課題が見られる。</p>	<p>・朝の学習の時間や授業中に基本的な計算の反復練習を行い、更なる定着を目指す。</p> <p>・文章問題を解く際には、具体物を使うなど場面をイメージさせる活動を多く取り入れ、式や図などを使って根拠を説明できるように指導する。</p>
量と測定	<p>平均正答率は県と比べて5.8ポイント高い。</p> <p>○時ごとと時間、長さ・重さ、ともに県平均より上回っている。日常生活の中で、既習のことを活用してきたことで身に付いたと考えられる。</p> <p>●2つの時刻を比較してその間の時間を求める問題は、県と比べて3.9ポイント下回った。</p>	<p>・時ごとと時間においては、日常的に時間の感覚を意識させるような機会を設定し定着を図る。</p> <p>・今後も体験活動等を多く取り入れ、児童がイメージをしやすく理解できる課題を設定する。</p>
図形	<p>平均正答率は県とほぼ同じである。</p> <p>○コンパスを用いて、正三角形を作図することができている。コンパスを使用して模様をかく作業など、児童が興味関心をもって取り組める課題を取り入れた結果だと考えられる。</p> <p>●「同じ大きさのボールを2つ入れた箱の辺の長さを選ぶ」問題では、県より1.5ポイント高かったが、個人差が大きい。</p>	<p>・今後も児童が自ら学びたいと思う課題を設定する。</p> <p>・コンパスや定規などを使用して作図する際には、児童一人一人の様子を把握し、個に応じた指導をしながら理解が図れるようにする。</p> <p>・具体物の操作活動を取り入れ、球の性質の理解を深めるように指導する。</p>
数量関係	<p>平均正答率は県と比べて1.6ポイント低い。</p> <p>○□を使った式では、□を使った文章問題を表した図を選ぶ問題が県の平均を上回った。</p> <p>●棒グラフと表に、課題が見られる。棒グラフを正しく読み取る力は、県より6.1ポイント下回った。また、表とグラフから読み取れることに着目して、言葉や数を使って説明する力に課題が見られた。</p>	<p>・根拠をもって理由を説明できるようにする力を身に付けるために、授業中、理由を加えて発表したり、他の意見に付け足したりするような話し合い活動を取り入れながら指導する。</p>

宇都宮市立海道小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.8	61.9	59.4
	生命・地球	66.6	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.4	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	60.3	61.0	58.8
	観察・実験の技能	65.0	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	64.8	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県と比べて2.4ポイント高い。</p> <p>○実験の結果からわかる「風のはたらき」について8割の児童が正答し、説明することができた。</p> <p>○日光を集めて火をおこすことができる道具について理解できている。</p> <p>○「太陽とかげの動きについて」と「回路について」の問題は県平均に比べて上回っている。</p> <p>●電気工事をする人たちがゴム手袋や長靴を使用する理由の説明の正答率が低い。</p> <p>●説明問題を解いている児童の正答率は高いが、その反面、無回答の児童も何人か見られた。</p>	<p>・説明力をつけるために授業で理由付けをしながら考えられるよう、日常的に指導していく。</p> <p>・先を見据えて考える力(予測する力)を、授業でもイメージしながら段階を踏んで説明していく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、県と比べて1.9ポイント高い。</p> <p>○太陽を見るときに使う道具については全員が理解できている。</p> <p>○ダンゴムシのすみか、植物のからだのつくりについては9割の児童が理解できている。</p> <p>○モンシロチョウがたまごから成虫になるまでのおよその期間についての問題への正答率は県平均を上回っており、よく理解できている。</p> <p>●ホウセンカの種のまき方の正答率が低い。</p> <p>●「こん虫の育ち方」、「こん虫のからだのつくり」、「太陽と地面のようす」、の正答率が県の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・図鑑や学校の自然を活用して、こん虫の観察や植物の育て方を理解できるようにする。</p> <p>・温度計を日々目にしてるので、読み方をその都度確認していく。</p>

宇都宮市立海道小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●「家で、計画を立てて勉強をしている」と自信を持って答えている児童は、県平均を9.5ポイント上回った。しかし、消極的な回答をしている児童の割合も高いため、計画表の活用と、見本となる学習法の提示をして、計画的に学習できる児童を増やしていきたい。

○「家で、学校の授業の復習をしている」と自信を持って答えている児童は、県平均を17.4ポイント上回った。その日に習ったことをその日に学習できる宿題を出してきた成果であると考えられる。

○休日の1日あたりの勉強時間について、全くしないと答えた児童が0ポイントであり、また4時間以上と答えた児童が県平均を9.6ポイント上回った。家庭での協力があることや週末に日記や自主学习など児童が取り組みやすい宿題を多く取り入れている成果と考えられる。

○読書に関する2つの質問において、どちらも県平均を上回っている。学級文庫の定期的な入れ替えや学級全体として図書室を利用する機会を設けている成果であると考えられる。

○クラスでの話し合いの活動や発言の質問に対して、全ての項目で県平均を上回った。特に、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると自信を持って答えた児童が多い。学級活動の時間に、話し合い活動を積極的に取り入れたり、話し合い活動の方法や発言の仕方を教室に提示したりしていることが成果に繋がったと考えられる。

●自己肯定感に関する3つの質問において、県平均よりも下回っている。一人ひとりに役割を与え、クラスでの活躍の場を作ったり、児童の頑張りや良い面を積極的に褒めていきたい。

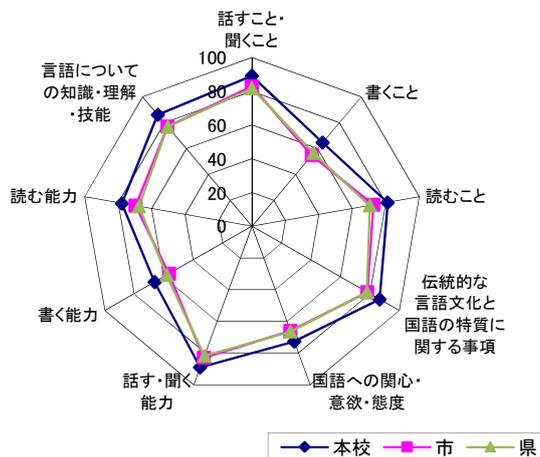
●家庭での生活において、毎日朝食を食べていると答えた児童は、100%であった。しかし、睡眠時間において、県平均よりも短く、6時間未満の児童が多くみられる。児童と保護者に睡眠の大切さを伝え、生活習慣の改善を図っていきたい。

●各教科においては、ほとんどの教科で好きという回答が県平均を上回っているか同程度である。しかし、理科が若干下回るため、実験や観察を多く取り入れたり、日常生活との関連を図ったりしながら児童の興味関心を高めていきたい。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	89.1	82.9	81.8
	書くこと	64.7	54.8	56.5
	読むこと	81.1	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	86.7	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	72.7	66.0	66.4
	話す・聞く能力	89.1	82.9	81.8
	書く能力	66.2	56.3	57.9
	読む能力	77.8	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	86.2	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

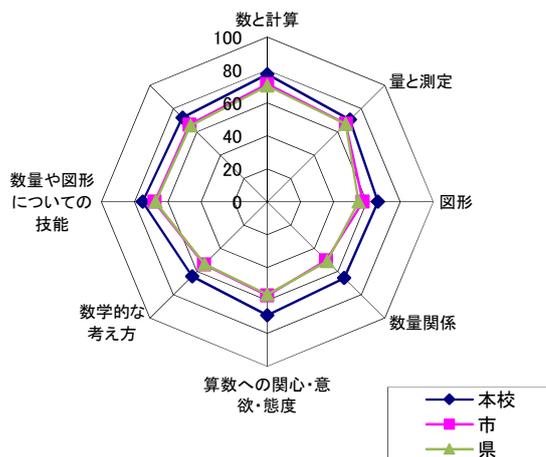
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は県と比べて7.3ポイント高く、どの内容も県や市を上回っている。特に、話し方の工夫に注意して聞き取る問題は、正答率が95.3ポイントと正答率が高かった。</p> <p>○話し合いにおいて司会者の役割を理解し、進行したり発言を整理したりすることができている。学校全体で学級活動を中心にして各教科で話し合い活動を推進している成果であると考えられる。</p>	<p>・今後も授業の中に話し合い学習を意図的に取り入れ、話し合いのルールの徹底を図る。また、意見の根拠を明確にして話す習慣や、友だちの意見との共通点や相違点を整理して聞く習慣などが身に付くようにする。</p> <p>・学級活動などにおいて、できるだけ多くの児童が司会の役目を行う機会を増やし、参加者の発言の共通点をまとめたながら話し合いを進められるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は県と比べて8.2ポイント高く、どの内容も県や市と同程度か上回っている。</p> <p>○本校児童の書くことの正答率は、県・市の平均正答率を上回っている。特に、2段落構成で文章を書く問題については、県平均よりも21.2ポイント高く正答率も74.4ポイントであった。</p> <p>●無回答が16.3ポイントあった。記述式の活用問題に課題が見られる。</p>	<p>・今後も、国語科を中心に文の構成を考え、書こうとすることの中心を明確にして、具体的に文章を書くことができるように指導していく。</p> <p>・意見や情報を適切に読み取り、ポスターの文を書く活動を取り入れていく。</p> <p>・視写活動を取り入れたり、児童の興味や関心のあることをテーマに選び、自分の考えや思いを書く場を増やし、書くことへの苦手意識を軽減していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は県と比べて10.6ポイント高く、どの内容も県や市を上回っている。</p> <p>○登場人物の気持ちを読み取ることや文章の内容を的確に読み取ることの正答率は高い。</p> <p>●段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取ることについては、市の平均は上回っているものの、県の平均より0.7ポイント低い。</p>	<p>・物語文において、場面の様子を読み取ったり、登場人物の会話文や心情を捉える文章表現から、心情の変化を表す表現を見つけたりする指導を丁寧に扱う。</p> <p>・説明文において、文章全体の構成を考え、段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取ることができるようにする。</p> <p>・朝の学習時や日頃の生活の中で、読書の時間を充実させていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は県と比べて8.6ポイント高く、どの内容も県や市を上回っている。</p> <p>○漢字の読み書き、漢字辞典の使い方、指示語の使い方の問題は、理解している。</p> <p>●文の構成(連用修飾語)の理解については、県や市の平均を上回っているが、正答率は46.5ポイントと他と比べて低い。</p>	<p>・個々の実態に応じた指導を工夫し、漢字の学習意欲を高め、漢字の習得を継続的に図っていく。また、既習事項の漢字を日頃から活用できる力を付けていく。</p> <p>・授業の中で積極的に漢字辞典を使ったり、家庭学習でも活用を促したりして、漢字辞典の使い方の習熟をさらに図る。</p> <p>・日頃から意識をして文の構成(修飾語)について考えさせる。</p>

宇都宮市立海道小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.5	71.5	70.4
	量と測定	70.5	67.0	66.9
	図形	66.6	57.6	55.0
	数量関係	65.5	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	69.0	57.0	56.3
	数学的な考え方	64.1	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	75.2	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	72.3	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

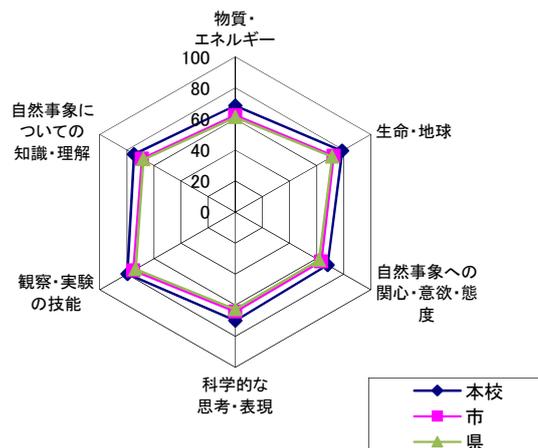
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は県と比べて7.1ポイント高い。</p> <p>○小数や分数の基本的な計算がとてもよくできている。小数のしくみや分数の大小関係、概数の表し方や対応する範囲についてもよく理解している。</p> <p>●数の相対的な大きさ、小数を用いた重さの単位換算、文章を読んで図に表す問題では、課題がみられる。</p>	<p>・朝の学習や計算ドリル、家庭学習等を通して計算の基礎的な学力の定着を図る。</p> <p>・今後も継続して、文章を読んで図に表す指導を取り入れていく。</p> <p>・学習プリント等を活用して、重さや長さの小数を用いた単位換算に関する問題を復習する機会を設け、丁寧に扱う。</p>
量と測定	<p>平均正答率は県と比べて3.6ポイント高い。</p> <p>○長方形や複合図形の面積の求め方をよく理解している。</p> <p>●身近にあるもののおよその面積を選択する問題の正答率が低い。</p> <p>●分度器の中に示された角の大きさを読み取る問題が県の平均に比べて6.2ポイント下回っているが、応用問題のほうができているため、ケアレスミスの可能性が高い。</p>	<p>・分度器の目盛りの読み取り方についてもう一度復習する。</p> <p>・身近にあるものの面積について、日頃から会話の中に取り入れ、関心を持たせる。</p> <p>・問題をよく読み、解答するように指導していく。</p>
図形	<p>平均正答率は県と比べて11.6ポイント高い。</p> <p>○すべての問題において県の平均を上回っている。</p> <p>○ひし形の作図は校内正答率が97.7ポイントで、何度も繰り返し作図の練習を行った成果が表れている。</p> <p>●地図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を説明する問題は、県の平均より13.7ポイント上回っているが正答率が29.1ポイントと低く、課題がみられる。</p>	<p>・今後もデジタル教科書や実物投影機などを活用し、図形のかき方の指導や様々な図形の性質を視覚的に捉えさせ、理解できるようにする。</p>
数量関係	<p>平均正答率は県と比べて14.4ポイント高い。</p> <p>○四則の混じった式や伴って変わる2つの数量の関係、分配法則については正答率も高く、身に付いてきている。</p> <p>●折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題では、正答率が県の平均よりも23.1ポイント上回っているが、校内の正答率は41.9ポイントと低く記述式の問題に課題が見られる。</p>	<p>・今後も身の回りから伴って変わる二つの数量の関係を見つけ、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察させ、理解を深めさせたい。</p> <p>・説明や考え方を記述することに課題がみられるため、記述する機会を意識的に多く設けたり、小グループやペアで自分の考えを分かりやすく相手に伝えることをめあてとし、取り組ませる。</p>

宇都宮市立海道小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.6	62.4	61.1
	生命・地球	78.9	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	68.2	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	69.9	64.1	62.6
	観察・実験の技能	79.6	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	74.7	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・県や市の平均よりも5ポイント以上高い ○どの内容においても、基礎部分の正答率が高い。特に「物の温まり方」や「物の体積や温度」の単元での正答率は県と比べて高く、定着している様子が見られる。これは、フォローアップシートを活用したことが有効であったことを示している。 ●「水のすがた」や「電気のはたらき」の正答率が低い。特に記述式の正答率が低く、県の平均を下回っている問題もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も理科プラスやフォローアップシートなどを活用し基礎基本の定着がされるよう指導していく。 ・実験や観察から発見したことを文章に表現する力を伸ばすために、授業のまとめを自分で書かせたり発言させたりするなどして、学んだことが定着されるように指導をしていく。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・県や市の平均よりも5ポイント以上高い。 ○動植物の様子についての正答率が非常に高く、自然についての基礎的な学力が定着している。また、「天気の様子と気温」の単元についても定着している。これは、日ごろの学習の中で観察の視点をしっかりと与えたり、デジタル教材などを活用したりした成果が表れている。 ●「月と星」、「自然の中の水」について、正答率の低い問題がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もICTを適切に利用しながら、児童の学習が定着するように指導をしていく。 ・観察を必要とする学習では、観察実験の結果を丁寧に確認し、生活経験と結び付けて指導をしていく。

宇都宮市立海道小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習に関する15問の質問中ほとんどの質問において、県の平均を上回った。特に、家で学校の授業の予習や復習をしている児童は、県の平均を上回り、予習をしている児童は20ポイント以上高かった。保護者と担任が連携して家庭学習を推進してきたことの成果であると考えられる。今後も宿題や自主学習を通して、家庭で授業に関わる自主的な学習に取り組む姿勢を育てていきたい。

○ほとんどの教科において、将来のために大切であると回答している。特に、国語と社会においては、県平均よりも10ポイント以上高かった。

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」という質問において、本校では100%の児童が肯定的な意見であった。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」という質問において、県平均よりも高く、課題に対して前向きな児童が多いことが分かる。

○「毎日、朝食を食べている」「早寝早起きを心がけている」という児童の割合は、県平均よりも高く、家庭での基礎的な生活習慣が身に付いていることが分かる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問において、県平均よりも3.9ポイント高かった。また、「クラスの友だちとの間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問において、県の平均よりも9ポイント高かった。その一方で、「友達と話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができる」という質問においては県平均よりも2.1ポイント低かった。友達と学び合うことの大切さを体感しているため、今後も他者の話を最後まで聞く習慣を付けていきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」、「授業では、クラスの友だちとの間で話し合う活動をよく行っている」という質問において、県の平均よりも数ポイント下回った。個々の活動の場を増やしたり、行事などで高学年として低学年をリードする機会を設け、自己有用感を持たせ意識を高めていきたい。

宇都宮市立海道小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
定着を図るための学習活動の充実	単元及び授業の導入の場などで、前学年までの内容や既習事項を確認する機会を設定したり、視聴覚教材を活用し進んで学習に取り組むような学習活動を工夫したりすることにより、定着を図る。	算数において、4・5年生ともに「量と計算」「図形」領域において、県の平均よりも高い。特に5年生の「数量関係」領域では、県の平均よりも14ポイント高かった。
家庭学習への取組	「家庭学習の手引き」を活用し、計画的に学習に取り組むよう働きかけをするとともに、個別指導により、家庭学習の充実を図る。	4・5年生ともに「家で学校の授業の予習・復習をしている」「家で計画を立てて勉強している」に肯定的に回答した児童の割合が高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語「書くこと」の領域において、4年生が36.2ポイント、5年生が64.7ポイントと、低い傾向にある。算数「数量関係」の領域において、グラフや表を読み取り、言葉や数等を使って理由を説明する問題に課題が見られる。	自分の考えを分かりやすく表現する（書く・説明する）力を育成するための学習活動の工夫	授業において、記述する機会を意識的に設けたり、他者の意見に理由を加えて話し合ったりする活動を取り入れることにより、表現力の育成を図る。 また、家庭学習等で視写活動を取り入れたたり、テーマを選んで自分の考えを書く場を増やしたりすることにより、書くことの苦手意識を軽減していく。